

令和6年度 松江市立福原会館運営審議会議事録

1. 開催日時 令和6年7月22日（月）15時00分から16時00分まで
2. 開催場所 松江市立福原会館
3. 出席者 委員（9名）
小谷久美子、西村昌志、矢田幸治、井上節男、錦織孝枝、
門脇正人、坂本健、家塚順子、稲田月子
松江市（5名）
石倉昌志、池田修、村上幸人、矢田英之、板持努
福原会館（3名）
安部清志、見崎裕子、渡部正司
4. 会長あいさつ（小谷会長）
5. 市民部長あいさつ（石倉松江市市民部長）
6. 自己紹介
7. 審議会の成立
委員10名中、9名の出席により審議会が成立していることを報告した。
8. 議長の選任
会長が議長を務めることを確認した。
9. 議事録署名人の選任
議事録署名人には西村委員、坂本委員を選任した。
10. 情報公開について
松江市情報公開条例第30条に基づき、審議会の議事録は公開とすることを周知した。
11. 議事
 - (1) 令和5年度福原会館事業報告
 - (2) 令和6年度福原会館運営方針（案）
 - (3) 令和6年度福原会館事業計画（案）

1 2. 審議の経過

(1) 令和5年度福原会館事業報告

館長が資料に基づき説明を行った。

また、事業別実施状況や来館・訪問研修について報告した。

質疑・意見なく、委員の承認を得た。

(2) 令和6年度福原会館運営方針（案）

(3) 令和6年度福原会館事業計画（案）

関連があるので館長が一括して資料に基づき説明を行った。

【質疑・意見】

(委員)

質問というか、意見というか言わせてください。

先ほど報告なり、お話をしてくださり、いろんな面で毎年活動なさっていて非常に素晴らしいと思います。

持田の公民館の館長になりまして、最近はやはり自治会の加入率も落ちていきますし、地域の繋がりが少し弱くなっているかなと思っています。こちらは福原会館がありますので、先ほどのいろいろな活動によって地域のつながりがまだまだ保っているのではないかなと思っています。ただ、そう言いながらも、少しずつ参加の人員とかですね、状況がどういう状況かというのは後ほど聞かせていただきたいと思っているのですが、その中の1つの取組として、最後の方に書いてあります要配慮者の支援事業、連携ということが書いてございます。

実は、先ほどおいでになりました井上さんが代表として持田全体の要配慮者支援事業というのを4月に結成されました。というのは、持田地区が、今地域の中で7地区、要配慮者事業をやっています。こちらの地域も組織があって、ただまだできていないというか、もう少しできて欲しいなというのが3つ4つぐらいありまして、それを作っていただくような、支援をするので全体でやる。それと、それぞれがやっているところはどんなことをやっているかというのを意見交換なり、勉強していこうじゃないか、というような話をしていました。その意見交換会も今度11月に開催させていただきたいと思っておりますし、その時にはぜひぜひこちらの地域の活動状況っていうのもお話をいただけたらと思っております。本当に非常に多方面で活動なさっておりますし、この福原会館を拠点としてなさっていると思っておりますので、引き続きそのことについて地域の繋がりを意識したことをやっていただきたいと思います。

最近の状況がどうかということをも1つだけお聞かせいただきたいと思います。

(会館)

自治会に入っておられる方が9割方になります。その中に見守り隊の中心になる方がいらっしゃいますので、その方を中心にいろんな活動を行っています。ただ、見守りとなりますと、自治会に入っていない方だけじゃなくて、入っていない方も対象になると思います。私も公民館に出させていただくと、災害があったとき、自治会に入っていない、未加入の人には連絡がいかなくていいのかという話になります。福原会館では、自治会に入っていない方も含めていろいろな情報提供をしていく、そういうふうを考えております。地域の皆さんも、見守り隊の方々もそのような考え方でおられますので、ぜひ持田公民館で地域のお話をさせていただければと思います。ありがとうございます。

(委員)

私も持田ですけど、非常に感じているのが、持田地域も、結構いま二極化、三極化しております。地域がそれぞれ、持田の館長さんも言われましたけど、大学に近い方の地域、耳高さん、竹崎さんの地域、それから西持田地域、それと東持田、平成地域、それとあとこちらのほうに来ますと川原地区、坂本地区というような感じで分かれているのですが、それぞれお住まいになっている生活スタイルというか、年代も違ってきますけど、近いところで新しく耳高なんかは若い方が入っておられますし、竹崎、平成はかなり高齢の方が多い、というような感じでそれぞれ地域に特性がございまして、福原会館を中心とした地域というのは、福原、坂本、川原、だいたい同じような生活形態というか地域形態というところでは、結構この福原会館はリーダー的な存在になっておまして、ここに地区連合会長もいらっしゃいますけど、同じ地区ですけど、見習うところが結構あるので、そこらへんでは地域のリーダー的存在に今もなっておりますけど、そのような感じで活動していただいて、お互いに良いところは見習って進めていったほうがいいのではないかと考えています。

持田全体を見ますと、求めるものが違っておられますので、私、社協の会長ですけど、全体でどのような形で進めていくかというのが課題となっております。今日も皆さん役員の偉い方いっぱい来ておられますけど、色々教えていただくことがあれば、それを取り入れながら全体で。とりあえずは要配慮者支援、お助け隊の連帯ができたということで、半ば強引に作ったような形ですけども、そういうふうな形なので、取り入れながら地域全体をこううまくできればなというふうに考えております。

市のほうでもこのような形で、いろいろご協力をいただいておりますが、よろしくお願いたします。ありがとうございます。

(委員)

本庄のほうは、長生会が結構盛んにいろんなところに顔を出していただいて、チームワークがいい部分があります。公民館としても頼みやすいので頼みますと、すぐいろん

なことに協力していただいております。

この前も大雨が降りまして避難所を開設したわけですが、お年寄りの状況はどうかという話をしたときに、会長はちょっと別の用事があったのですが、副会長が「長生会に連絡をとって情報収集してやる」と、すぐ情報収集をしておられまして、地域のネットワークを担っていただいたりしております。

結構平均年齢はだいぶ高くなってきておりますけども、いい流れだなと思います。

今日たまたま、寺子屋がスタートして、その後こども食堂をやったのですが、その折にも寺子屋が終わって、こども食堂のあと、それこそポッチャのこどもたちへの指導を長生会の方がしてくれて、そこらへんのこともできているなど感じています。

やはり本庄も45%くらいの高齢化率になっていまして、何かあったときにどうしようか、というところは気にかけているところです。いまのところ会長以下いろいろお手伝していただいてスムーズにできているのではないかと感じています。

上述以外の質疑・意見なく、委員の承認を得た。

13. 閉会のあいさつ（門脇副会長）